「令和４年度　第６回境港市みんなでまちづくり推進会議」会議録

【日　時】令和５年２月２０日（月）１８：３０ ～ ２０：５０
【場　所】境港市民活動センター
【出席者】松本幸永（会長）、畑本愛（副会長）、三原真由美、吹野真彩、遠藤緑、吉田明広
足立勲（７名・敬称略）
【欠席者】井上竜輔、渡辺博美、藤中誠也、舛岡彩子、松田真二（５名・敬称略）
【傍聴者】３名
【事務局】小川博史（地域振興課長）
立花順平（地域振興課長補佐兼企画係長）
竹本夏樹（地域振興課企画係主任）
【アドバイザー】毎熊浩一（島根大学法文学部教授）

【日　程】１　開会
２　今期の取組テーマについての協議
３　事務連絡・閉会

１．開会
〔事務局〕
定刻となりましたので、ただ今から令和４年度第６回境港市みんなでまちづくり推進会議を開会いたします。よろしくお願いします。
本日は、本推進会議のアドバイザーでいらっしゃいます島根大学法文学部教授　毎熊浩一先生に来ていただいております。
また、渡辺博美委員、舛岡彩子委員、松田真二委員から欠席されると連絡が入っています。（井上竜輔委員と藤中誠也委員はそのまま欠席）
それでは、まず、本推進会議の松本会長よりご挨拶をお願いします。

〔会　長〕
皆さん、こんばんは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。
本日は、今期のテーマについて協議をします。前回会議での議論及びアンケート結果を元に来年度に向けての具体的な取り組み内容を決定します。
事務局と毎熊先生の話を聞いたうえで、活発に意見を出していただけたらと思います。それでは、皆さんよろしくお願いします。

（事務局）
会長、ありがとうございました。
協議に入る前に、市民活動推進補助金について１件中止の届出がありましたのでご報告します。
緑化事業で申請があり許可しました「中浜小学校保護者と先生の会」について、令和４年１１月３０日に新型コロナウイルス感染症拡大のために活動を中止するとの届出ありま

した。中浜小学校から中止要請があり、延期はしないとのことでしたので、届出を受理しました。

２．今期の取組テーマについての協議

〔事務局〕

続いて、今回のテーマについての協議に当たり、事務局から前回会議の振り返りとアンケート結果についてご説明します。

資料「アンケート結果を踏まえた来年度の取組に向けて(案)」をご覧ください。

事務局からの振り返り：

地域の会議などに特定の人しか集まらない。まちの課題が多くの人にとっては「他人ごと」になっているため、まちの課題解決に向けた取り組みが進まないのではないか。

自分の好きなことや特技（自分ごと）をまちづくりに活かすことのできる仕組みがあれば、まちづくりに参画する市民が増えるのではないか。

第５回会議での協議を元に「好きなこと得意なこと調査」を行った。ネット回答を採用したことにより若年層の回答が増えて、用紙回答と合わせて106件の回答があり、すべての世代から満遍なく回答があった。また、年齢別では女性６：男性４の割合で回答があり、女性の回答が多かった。

上記の意見として挙げられた「地域の会議などに特定の人しか集まらない」の特定の人は、高齢の男性と考えられるが、回答者の内訳から、アプローチ方法によっては若年層や女性からも反応があることが分かった。

アンケート目的と結果を踏まえて今期のテーマを決定し、来年度に向けた具体的な取組内容について協議をお願いしたい。

〔事務局〕

続いて、毎熊先生にお話しいただきます。毎熊先生、よろしくお願いします。

〔毎熊アドバイザー〕

毎熊先生からの振り返り：

アンケートの回答者100人ぐらいと意外に集まった。ただ、アンケートに答えてくれたから、みんながまちづくりに積極的という話にはならない。最初の一歩、アプローチの方向性としては手応えを感じられた。

境港市の皆さんそれぞれが、好きなこと得意なことを生かしながらまちづくりにつなげていくことが大事。そこをどうするかについて話していかなければならない。

残り１年間、机上だけでは説得力がないので、そのアプローチで実験的にやってみて、今期の最後に具体的な仕組みを提言できると良い。

これまでもボランティア登録、ポイント制、地域通貨など、いろいろな仕組みがこれまでもあったが、続かないなどの失敗も多かった。その理由も調査しつつ、実験的に何かをやっていくことができると良い。

アンケート結果が年代別にまとめられているが、今後の議論のしやすさからいうと、

得意なこと、できることをグルーピングできるとわかりやすい。ある程度、カテゴリー化して把握できると、今後の協議がしやすくなる。

〔事務局〕
ありがとうございました。
それでは続いて協議に入ります。会長に進行をお願いします。

協議内容
〇協議経過
〔副会長〕
　アンケート結果を見て思ったことは、境港での暮らしの困りごとやまちの課題は暗い話題で不満しか書いてないということ。課題について会議で話し合うと「行政でやって」という話になってしまう。せっかくこの会議で民間から集まって自由な発想を話して良い場があるのに、空き家問題とか一つ一つ絞ると責任感の多い議論になる。
　一方、あなたの趣味・特技とか、知り合いの自慢できる特技の回答は楽しい、前向きで活動的な雰囲気が感じられる。境港市での生活課題と暮らしている人たちの明るさ、エネルギーがリンクしていない。市民にはエネルギーがあるのに、それが生活に活かされていないことが問題。
　協議内容を細かくフォーカスすると、この会議では手に負えない気がする。音楽好きの人に声をかけて、音楽フェスティバルをやるのは違う次元になる。市民の明るいエネルギーをどのようにまちづくりにつなげるか、フォーカスしすぎない方が迷宮入りしないのではないか。
　私はアンケート結果を見て、明るい人たちが境港市にいるのが意外だった。私も祭り好きで明るい方だと思うが、こういう人にあまり会ったことないので、どうやったら出会えるかと思った。エネルギーがある人たちがつながるための手助けがあればいい。

・今回の参加者にアンケート結果から気になった趣味・特技の聞き取り
卒論のテーマにしたほどドラえもんが好き。ストピ（ストリートピアノ）が欲しい。
韓国語、漢文が好き。吹奏楽を 12 年続けている。ＤＩグランプリ。
子どもと遊ぶのが好き。魚食文化について調べること。レコードを聞くこと。
郷土料理で因幡の鯖寿司を作っている。散歩、ランニング。
好きなアイドルに詳しい。推し活。

〔副会長〕
　会議の委員だけでも目が止まる場所が違う。いろんな趣味の人たちが集まると楽しそうな話が始まりそう。
　一つ一つの趣味や特技に絞るより、いろんな趣味がつながる場をつくることが良いのでは。自分たちの好きなものをアピールできるイベントなどを試しに開催してみるのはどうか。

〔吉田委員〕
　そのようなイベントは既に頻繁にやられている。３月２１日にはみなとテラスでアートと音楽と食のイベントを開催される。人を集めるだけじゃなくて、そこからまちづくりに関わるボランティアのつながりを作るという意味でやるのであれば、ただのイベントにはならないのではないか。

〔副会長〕
　目的はボランティア発掘ではない。市民の趣味や特技を多くの人に知ってもらえたら良い。ボランティアを募って地域活動をする人を探すのではなくて、「境港市民がこんな楽しいことやっている」ということを広く知ってもらう方が重要。イベントで自分の好きなブースに行くだけで、地域活性化につながるみたいなところを狙っていくといいのでは。

〔吉田委員〕
　それが、まちづくりにつながるイベントになるか。来て遊ぶだけでは意味がない。それだったらどこでもやっている。

〔副会長〕
　イベントに関わったグループ同士で連絡をとれるように、みんなでまちづくり推進会議が主催して意見交換会をする。そうするとただのイベントとは違ってくるのではないか。イベントを目標にして、そこに至るまでに顔合わせをすることによって、仲良くなったり、意見交換ができたりするのではないか。

〔事務局〕
　毎熊先生、ここまでの議論で具体的な取組内容と今期のテーマのどちらかを先に決めた方が良いでしょうか？

〔毎熊アドバイザー〕
　テーマというか、１年後、この委員会が終わるときの着地点の共有認識を持てたらいい。副会長が言われていることは通過点で、僕は物足りなさ感じる。１年後には、みんなでまちづくりを推進していけるような何かを残したい。最終的な着地点をイメージしつつ、途中で楽しい会ができたらいい。最後の着地点を先に決めた方がいいかもしれません。
　今回のアンケート結果も財産。境港の人が楽しそうと思える。今回は実験的に期間限定で 100 人に答えていただいたが、仮にもう一度アンケートをやるとして、それをどう活かしていくか最後に提言として出てくるといい。

〔事務局〕
　面白い人が町中にいることがリスト化できると、みんなでまちづくり推進会議の主催でなくても、ここで作ったデータベースがきっかけでつながるのではないか。

先日は、地域振興課主催で市民図書館を会場に移住者交流会を開催して、自分の好きな本を紹介してもらって盛り上がった。参加者の人となりがわかって、その情報が蓄積されていくと自然につながるきっかけになるのではないか。

〔副会長〕
今回のアンケートの回答者や連絡先はわかりますか。

〔事務局〕
連絡先を答えている人もいますが、アンケート結果を配布するにあたって、その部分をカットして委員の皆さんに配布している。個人情報は配布しにくいので、対面のイベントを開催するとなったときに、連絡先に書いてくれた人に連絡して参加してもらって、そこで初めて参加者同士で連絡先を交換する流れになると思う。

〔副会長〕
そうすると、連絡が取れるように対面の会を開いてみるのはどうでしょう。
イベント参加者が前段階で顔合わせ会をする発想だったが、別にイベントがなくても、アンケートで連絡先を答えてくれた人に声をかけてみて集まってもらう。参加してくれた人にデータベースに載せて良いか確認する。

〔毎熊アドバイザー〕
イメージとしてはそう。イベントに限らず、こういうことができるという人のリストができることで、人と人がつながるようになると。

〔吉田委員〕
イベントを開催するにしても、興味がない人をつなげるのはやはり難しいと思う。

〔副会長〕
それについて熱く語る人の話を聞いた後だったら、行ってみようと思うかもしれない。ただ接点がない。

〔吉田委員〕
そこが一番の問題だと思っている。つなげられる人を育てられるようなイベントをやれたら面白い。

〔副会長〕
コーディネーターがいたらいいという話は前から出ている。この人に聞けばつないでくれるというような窓口があったらいい。イベントでつなげられる人を育てるというのは難しい。

〔吉田委員〕
　育てるのは無理だから、それを意識しながら進めていった方がいいということ。

〔事務局〕
　自分の興味があることはわかっても、同じ興味を持っている人は知らないことがあるので、切り口としてデータベースづくりは良いのでは。

〔副会長〕
　市のイベントだと、どうしても実績があるところに依頼しやすいようである。データベースを作ることに集中すると将来につなげられる感じがする。データベースを作るための交流会を企画するのはどうでしょうか。
　今回のアンケートに答えていただいた方に集まってもらって、交流会をすることから始めてみてもいいのでは。１年でやるには、時間かかりすぎるか。

〔吉田委員〕
　既にイベントをやっている団体から集めた方が確実ではないか。

〔副会長〕
　それだと新たな発掘がなくて面白くなさそう。

〔事務局〕
　既にイベントをやっている団体同士でも、お互いに知らないことあると思う。

〔副会長〕
　今、既存のグループ同士を確実につなげるということか。

〔事務局〕
　例えば、データベースを作ったとして、そのデータベースを見た人から「他にもこんな人もいる」との声が出てきたら追加していくこともできる。

〔副会長〕
　既存のグループつなげることに着目して、そのために何かやってみる。

〔事務局〕
　気になったのは、最初の「趣味・特技」の話のときに、足立委員が「子どもと遊ぶのが好き」、遠藤委員が「散歩とランニング」と発言されていたこと。こういう方達がどうやってまちづくりに参加していくかを考えたときに、イベントをする人を発掘したいわけではないので、個人的な趣味とか、子どもと遊ぶのが好きという人たちがどうすればまちづくりに関われるのか。イベントをする人に特化していると、むしろ私たちには関係ない話だと、離れていってしまう気がする。

１年後、市長に提言書を出すときに、報告書をどういう中身にするのか、やったことによって何が生まれたのか、参加者の声はどうだったのか、その声をどれだけ拾って分析できたかが大事。イベントをするにしても、アンケートをとらないといけないし、今期の目的が反映されたアンケートにする必要がある。次につながる具体的な仕組みができることが大事。実際に動き出したことが提言の中に書けると良い。

〔事務局〕
境港市内で活動しているグループはたくさんあっても、いつどこでどんな活動をしているか知られていない。知らないことで参加しなかった人が、知ることで参加するようになるのではないか。
参考資料として、福祉保健部が実施した市民アンケートを付けている。「ボランティア活動に参加したことがありますか？」との問いに対して「参加している」「以前したことがある」が合わせて全体の半分ぐらい。参加する理由として、「楽しい」「周りの人がやっている」「仲間」とか、何気ないことで参加している人がいる一方、参加しない理由として、「時間がない」「忙しい」という人もいて、さらに「どこで活動しているかわからない」「一緒にやってくれる人がいない」という人も結構いる。何かきっかけがあれば参加する人がいるのではないか。個々に活動している人にとって、活動している人がわかるリストを作る意味はあるのでは。

〔副会長〕
興味がある人にとっては、リストがあって調べることができると活動が広がるチャンスになる。

〔事務局〕
市民活動センターには市民活動団体の情報がある、個人情報のことがあるので、ホームページや冊子など、データベースをどのように提示するか課題はある。

〔副会長〕
データベースを作っていくとするならば、エンターテイナーだけでなく、地域の見守り隊の人など、集めるだけ集めればいいのではないか。そのデータベースを市民活動センターで見られるようにする。
イベントをするとなると準備が大変。月１回集まりでは現実的にイベントを開催するのは難しい。データベースを作るのであれば、集まらなくてもやれることはある。後１年でやるのであれば、現実的にはこの路線かな。

〔吉田委員〕
「アンケートに答えてもらった人たちに集まってもらってイベントをするのは難しい」という話をしたのは、大がかりなイベントをするくらいなら、既に活動している人のデータを集めた方が楽と言っただけで、子どもと遊ぶのが好きというような人がつながれるようなイベントならやった方がいい。

〔副会長〕
　後１年では難しいのでは。

〔事務局〕
　吉田委員が言われたのは、大きい規模ではなく 10 人くらいの規模でもやった方がいいという意味ではないかと。とりあえずデータベースを作るぐらいであれば、これに答えてくれた人の中で、連絡先まで教えてくれた人たちを集めて、対面の会をした方がいいのではないかということではないか。

〔副会長〕
　それは、私が先ほど話した、連絡が取れる人たちと交流会をするということか。

〔会長〕
　つながるためには、テーマが一つのイベントの方が良い。集まりやすいし、意見も出しやすい。趣味の違う人と話す場では、逆に敬遠されるかもしれない。最終的には、活かせるリストを作ることを目標にする。

〔事務局〕
　データベースを作っただけでは、誰にも見られない可能性がある。イベントもやっただけではつながらない。それだったら人材発掘に特化した方が、データベースを使って次につなげられるのではないか。どっちがいいか。

〔遠藤委員〕
　人と人とをつなぐには、場所が必要。既にいろいろなイベントで出展をしている人たちには、イベントが一つの場所になっている。境港市でイベントをしている人に限定して集めたとしても、そこに来た人たちは境港市で活動している人を知ることができる。イベントでブースを出したら、少なくともこのイベントに参加した人はつながれてデータベースができるかもしれない。
　私たちが闇雲にデータベースを作っても、どこに配布したらいいかわからない。このアンケートから選ぶと、誰かに知って欲しいわけではない人も含まれる。例えば、小さいお店をしている人とか、見守り活動をしている人とか、そういう人がデータベースに載った方が、その人たちもデータベースを他の人に伝えることができるし、広げてほしいかもしれない。データベースをどう公開するのかを考えていくこともできる。
　何かをしている人は知って欲しい思いでやっていて、自分の作ったものを売りたいとか、きっかけが必要。やる気があって発信したい人を一緒にしてあげた方が良い。発信したい人同士が隣り合ったらまた発信もできるかもしれない。最初は受け身で参加した人も、自分にも何かできるかもと思うかもしれない。
　データベースかイベントの２択ではなく、一緒にしないと意味がない。知らない人たちをつなげてあげるのも大事だけど、何かやろうとして人たちをつなげる方が大事。

〔副会長〕
　やる気のある人たちをつなげてあげる。まずはそこからやりたい。イベントをしたらデータベースができるので、データベース、イベントだけで終わるのはありえない。
　毎熊アドバイザーが言われるように、イベント開催は途中経過というのもわかるが、無理に完結を目指さなくて次につなげていけばいい。

〔毎熊アドバイザー〕
　この１年ぐらいの議論を振り返ると、まちづくりに３つアプローチがあって、１つ目はみんなこう関わるべきという、境港市民だから境港のまちづくりやるのは当たり前という「べき論的アプローチ」があって、使命感に基づいてやっている人も実際にいる。
　２つ目は楽しいからやる。まちづくりがやりたくて、人のためになるのが好きでやっている。「楽しいアプローチ」はあると思う。
　やろうとしているアプローチは３つ目で、自分自身としてはまちづくりとか社会のためとかは考えてないけど、歌が好きだし、祭りが好きだし、それができたら協力してもいい、という人たちをどう巻き込んでいくか、それが課題だったはず。
　そのために、自分の「好きなこと、できること」をまず聞いてみることを目的にアンケートをやってみた。実際にこの結果を使ってまちづくりにつなげていくのは溝があって、どうそれを乗り越えるかを考えていく必要がある。第一歩として何がいいかとなったときに、イベントはありだと思う。でも、どういう仕掛けをするかが大事なので、そこを考えないといけないし、データベースは不可欠。境港市民全員の趣味や特技が載っていれば最高。
　ただ、そのデータベースがあっても、まちづくりにはつながらない。勝手に歌を歌っている、勝手にギター弾いている人がいるだけで、その組み合わせの仕掛けをどう考えるか、１年間でヒントでも出るといい。その一回目のイベント、仕掛けは何がいいか考えている。見本市、展示会みたいなのは面白そう。既にやっている人に呼びかけるのは有りと思う一方で、それが一番の課題という気もしている。できる人を集めるという第一歩。その試みをやってみて、駄目ならなぜ駄目だったのかということ検証する。集まる人を集めても集まるのは当然。そこが難しい。

〔副会長〕
　出てくださいという前提で声をかけると、出てくれそうな人たちに出てもらうことになる。ではなくて、その人たちにも声をかけるし、連絡先を教えてくれた人にも声をかけるみたいな。普通に声をかけて募集したらいいのではないか。

〔吉田委員〕
　募集して集まらないから困っているのをどうしようという話だった。

〔副会長〕
　集まらないかどうかはまだやってないからわからない。

〔遠藤委員〕
　集まらなかったら、こういう方たちは、こういうイベントには来ないことがわかる。

〔副会長〕
　イベントをやってみるのもありかなと。声をかける対象としては、既存の団体とアンケートに連絡先を教えていただいた方。

〔毎熊アドバイザー〕
　イベントはとりあえず置いといて、仮にデータベースができて、理想的な形を考えたときに、例えば、僕が境港市民で空き家問題何とかしたいと。自分１人しかいないし、何をしたらいいかわからないと思ったときにこのリストを見て、歌が歌える人がいる、太鼓が叩ける人がいることがわかって、この人たちに連絡して、来てもらって一緒に取り組めたら良い。そういう使い方ができるために必要なことがわかるといい。まずは、リストが無いと駄目。連絡先を伝えてもＯＫという人に連絡できる仕組みもないといけない。
　ただ、声をかけたときに絶対ＯＫとはならない。リストとその稼働する仕組みが、どうやったらできるか。

〔副会長〕
　個人の連絡先をリストに載せると大問題になる。市など間に入ってもらえたら安心すし、個人情報をさらさずに済む。

〔毎熊アドバイザー〕
　最終的の着地点のイメージは、提言書の中に、個人名を出さずにデータベースができて、中間的などこか、市なり、市民活動センターがデータベースを管理するみたいなことが書かれている。データベースをつくるために、イベントなどやって自分たちで確かめてみる。やってみた感想も書かれているとなお良い。最終的な着地点は、仕組みづくりのための提案という気がしている。
　１年ではつくり上げることは無理だが、市長に方向性を提示して、しっかりとお金と人をつけて、という提案ができると良い。第一歩としてどんなイベントがいいか、まだちょっと答えが出ない。最終的な着地点を見据えた上でのイベントができると良い。

〔遠藤委員〕
　まちづくりのサポーター登録のようなものは何かありますか。

〔事務局〕
　市民活動センターでは、活動したい人が打ち合わせする場所やメールボックスもここに置いてある。連絡とかいろいろとやり取りする場所がまさにこの場所。非営利活動をする場合には、拠点として使うことができる。

〔副会長〕
　この市民活動センターの活用方法を考えることが、テーマを考えることにつながる感じがする。

〔吉田委員〕
　市民会館にあった頃の市民活動センターは目立った活動をしていた。

〔事務局〕
　知っている人には使ってもらえているけど、すべての人が知っているわけではなく、知らない人は知らないままになっている。

〔毎熊アドバイザー〕
　課題は、いわば意識高い系とか、まちづくりを楽しめる人たちだけがやっていたのを、特に高い意識なくても、結果的に町に役に立ちました、みたいなことになるといいなという話だった。そのための仕組みをつくる、あるいは市民活動センターの活用ができると良い。

〔吉田委員〕
　整理すると、まちづくりにつながるようなシステムづくりをするために、まずイベントをやってみる、そういうことができるかを実践してみるということか。

〔副会長〕
　イベントに出てくださる方がどうやったらつながるか検証しながら、準備とか実施とか、反省会をすれば、何か残せるのではないか。

〔毎熊アドバイザー〕
　ちなみに、連絡先を教えていただけた人は何人くらいですか。

〔事務局〕
　一、二割ぐらいです。

〔副会長〕
　そんな大きいイベントをするわけでもないので、既存のところに声をかければいいかなと思う。とりあえずそれぐらいから。

〔事務局〕
　特技を活かしたイベントをする前に、何でその人がこんな趣味を持ったかを聞いてみる形の交流会を開いてみることもできる。切り口を変えてみるとつながるのではないか。

〔毎熊アドバイザー〕
　一人一人がつながることが目的というよりは、それぞれが持っている特技をまちづくりにつなぐことが目的。なので、交流会は盛り上げるためにあっていいかと思うが、それだけでは趣味の仲間が広がって終わりになりかねない。ここでやるイベントとしてはどうか。

〔副会長〕
　データベースをまちづくりに活かすための仕組みづくりということを見失わないようにイベントを進めればいいのではないか。
　テーマとやることはまとめるとどうなるか。

〇結論
　テーマ：「好きなこと得意なことをまちづくりに活かすための仕組みづくり（仮）」
　方向性：　境港市民の趣味や特技をまちづくりに活かすための仕組みを検討するために、イベント開催とデータベース作成を並行して実施して、結果を検証する。
　　次回会議で具体的な取り組み内容を決定する。

〔事務局〕
　ありがとうございました。それでは、第８期委員の取組テーマは「好きなこと得意なことをまちづくりに活かすための仕組みづくり（仮）」とします。

３．事務連絡・閉会
〔事務局〕
　それでは、以上で第６回会議終了します。今年度のみんなでまちづくり推進会議が今回で終了です。

　次回の推進会議は来年度の第１回になりまして３月２７日（月）に開催します。場所は、保健相談センターを予定しています。
　内容は、市民活動推進補助金の審査及び今期のテーマについての協議です。
　開始時間は、補助金申請件数によって決めますので、改めてご連絡いたします。
　以上で、第６回みんなでまちづくり推進会議を終了します。皆さん、長時間に渡り、ありがとうございました。

＜閉会＞